

信楽街道

しがらきかいどう

家康伊賀越えの道



松峠への道

京都府宇治田原町

信楽街道～家康伊賀越えの道

このコースは宇治田原を東西に横断し、山城と近江を結ぶ交通路「信楽街道」のルートを基に、「伊賀越え」で徳川家康が通ったと思われる道をたどるモデルコースとして設定したものです。

信楽街道は、宇治田原の西の玄関口である郷之口から、龔田（ねだ）、立川、湯屋谷を通り、最も東の奥山田の裏白峠を越えて信楽に至るもので、国道307号のルート以前に東西を往来する主要な交通路でした。

現在自動車では通れない場所もありますが、その痕跡をたどることは可能です。

コース始点には案内板、道中には道標を設置し、町のHPにコースガイドを掲載しています。

全行程：約8km（郷之口下町～奥山田茶屋村）
所要時間：約5時間（見学・休憩含む）
高低差：約200m
消費カロリー：約756kcal(体重60kgの人が平地を歩く計算)
交通アクセス：
JR奈良線「宇治」、京阪「宇治」、近鉄「新田辺」から京阪宇治バス「維中前」「工業団地」「緑苑坂」行に乗り最寄りバス停「下町」（始点）「維中前」（立川）「工業団地口」（湯屋谷）

徳川家康の伊賀越え（神君伊賀越え）

天下統一を目前にしていた織田信長は、天正10（1582）年6月2日、滞在していた京・本能寺で明智光秀の襲撃にあい、その生涯を閉じました。

当時信長の招きで堺に逗留していた徳川家康は、上洛の途上でその事実を知り、一旦は信長の後を追う覚悟をしたものの家臣に止められ、意を決して急ぎ領国三河へ戻ることにしました。

随行する家臣の人数が少ない中、明智方や一揆の襲撃におびえなら、大阪の枚方から山城に入り、「草内の渡し」で木津川を渡りました。このとき遅れた家臣の穴山梅雪が飯岡でおそわれて命を落としたともいわれています。

当時信長の命で交通の要所である宇治田原を抑えるため郷之口に「山口城（宇治田原城）」を構えていた山口甚介秀康は、家康が向かっていることを知って配下を迎えに行かせました。

家康一行は現在の城陽市市辺を経由して宇治田原に入り、山口城で昼食をとったといわれます。やがて馬を換えて出発し、当時の信楽街道である立川、湯屋谷を経て奥山田に入りました。裏白峠を越えて信楽の朝宮に入った家康一行は、多羅尾氏の小川城に入り、一泊したといわれます。

以降は警護も増強され、伊賀を経由して白子浜に出て、伊勢湾を渡って無事三河に到着しました。

なお、伊賀越えの経過やルートについては諸説あります。

郷之口



郷之口の旧家



山口城跡

郷之口は文字通り宇治田原郷の西の入口にあたり、山口甚介秀康が山口城を築いて城下を整備してからは中心地として機能し、現在も茶問屋や民家の古い家屋が多く残り、町並みを形成しています。

蕪村句碑の建つ妙楽寺、山口氏の菩提寺であった極楽寺他、町指定登録文化財を有する寺院があります。

立川



三宮神社



柿屋

現在も田園風景と集落が調和した農村のたたずまいをよく残しています。

地区内には町内最古級の社殿とみられる三宮神社、平治の乱で死去した藤原信西ゆかりの信西入道塚、隠れた紅葉の名所大道神社等の史跡があり、古くから鷲峰山への登山口としても知られています。

11月には特産古老柿を作る柿屋が建ち並びます。

湯屋谷



永谷宗円生家



大滝

塩谷、中谷、西谷、石詰等の谷間に集落が築かれている湯屋谷は、古くから多数の寺社や温泉（湯屋）があったといわれます。

茶祖・永谷宗円ゆかりの地に古い焙炉跡等を保存する「永谷宗円生家」や宗円をまつる茶宗明神社、町内最大の滝・大滝と、大瀧祭や「とうろう張り」など独特の風習が残されています。

奥山田



川上集落



天神社

信楽に隣接した最も東の地域奥山田は山村の風情を残し、裏白峠は今も昔も山城と近江を往来するための重要な交通路です。

府登録文化財の天神社、快慶作の不動明王を保存してきた正寿院などの寺社や、石灰岩から石灰を作る窯跡、山岳寺院として栄えた医王教寺跡など多数の遺跡が残り、町内最古の旧石器も発見されています。